

年月日

21

07
01

ページ

27

NO.

アンデックス（広島県尾道市、田辺耕造社長）は、自動車補修用の塗装ブースで市場シェア約40%とトップを誇る。自動車向けで培つた高品質を武器に、鉄道車両や航空機、建機などの塗装ブースも手がけるようになり、塗装設備メーカーとしての地歩を固めてきた。

1971年の創業当初は造船関連の換気装置からスタート。72年の労働安全衛生法施行を機に、塗装作業においても労働環境の改善が求められるようにならざり、塗装ブースへの二度目の高まつていった。アンデックスは構成部品を標準化・プレハブ化し、設置しやすくしたブースにより、二度拡大の波をうまく捉えた。

ほかにもブースからの排気中の有害物質の捕集や臭氣対策など、塗装ブースに求められる要件は大きく二つある。労働環境改善と塗装品質の向上だ。前者では法規制上、ブース内でもんべんなく、作業者が呼吸する高さで上から下に秒速20センチ以上の風を吹かせることが求められる。作業者が有機溶剤などを吸い込まなくなるためだ。また近年では、夏場の暑熱対策も重要なテーマになっている。

後者では、最適な温度と湿度のコントロールや、ホコリや虫などの侵入対策が重要になる。

「求められる要件は厳しくなるばかり。なかなか難しくて、やれる会社は少ない」と田辺社長は話す。

16年には本社敷地内に、体験型展示施設「ライブファクトリー」を開設した。温度と湿度を精密に制御で

アンデックス

車補修用塗装ブースでトップシェア



41



自動車補修用塗装ブースの主力モデル「CAB-SP」

作業環境改善と品質両立

16年には本社敷地内に、体験型展示施設「ライブファクトリー」を開設した。温度と湿度を精密に制御でを得るにはどのような

【大阪中小企業投資育成会社の目線】
部・山本健太上席調査役】自動車補修用塗装ブースのトップメーカー。たゆまぬ製品開発で、塗装品質だけでなく塗装作業者の労働環境改善への取り組みが支持されている。航空機や鉄道車両の塗装にも事業領域を広げながら進化し続けている。

IOTで監視 最適なメンテ提案

条件が必要かな?」「対応を掲げる。塗装ブースは多い」(吉田伸常社長)。塗装ブースには吸排気フィルターという交換部品が自動車補修用ブース不可或缺。「ブースの稼働状況を遠隔監視し、メンテナンスやフィルター交換を提案する。て、最適なタイミングでメンテナンスを実現する。」と田辺社長は語る。

自動車補修用ブースの最新モデル「CAB-SP」も展示する。ブース内を三つのエリアに分け、作業者のいるエリアだけ冷房をかけることができる。ラスで、「設備寿命は飛躍的に伸びる」と田辺社長。近く、対応機種を市場投入する計画だ。

今後の重点テーマとして、IOT(モノのインターネット)への(福山支局長・清水信彦)への(木曜日に掲載)